

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年5月24日(金) 13:10~15:10
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	森本翔太郎	馬瀬建設株式会社 専務取締役
委 員	中村 好一	下呂市教育長
	皆越 眞佐代	NPO飛騨小坂200滝 (欠席)
	向野 優子	NPOみらいろ理事長
	小池 雅之	下呂市観光商工部長 (欠席)
	山下 久美子	下呂看護専門学校長
	佐野 ちあき	ホテルくさかべアルメリア職員
	長尾 伴文	ぎふ夢教育応援隊
	前田 芳隆	前小坂中学校長
	栃井 政文	育友会長
学 校 側	小田 正人	校長
	青木 穰	事務長
	石丸 浩国	教頭
	井田 誠	教務主任
	打保 圭史	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事
	塚中 一成	保健安全部長
	角川 公太	特別活動部長

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和6年度教育指導の重点及び学校経営計画について
- (2) 本校のスクールミッションについて
- (3) 意見交流

意見1・課題を一つ絞って、それについて議論するという形のほうがより良い議論ができるのではないかという提案を受けた。

意見2・下呂市唯一の学校として地域も応援している。校長の発言にあったような故郷を思う人材を育てるには地域との心地よい関わりが必要ではないか。自走力を培うには、地域の方と関わる機会を増やす必要がある。昨年度に行った取り組みの中で、清風サロンが地域の方に大変好評だった。例えばボランティアのような形で校内の授業の枠だけではなく、地域の枠にも広げていってほしい。

意見3・子供が自分で自ら選択するというのは本人に責任が伴うという意味ですごく重要だと思う。
・探究の時間の満足度が低いということについて、自分のやったことが評価されることで達成感につながるのではないか。中学生や企業などに提案するなどの場を設け、そこで評価を

受けることで満足感が得られるのではないかと。

- 意見 4・加茂高校が学科で改編して地域探究を目玉に、令和7年度からスタートすると報道があった。
地域連携を活かして全国から目を向けられるようになるという覚悟を持って取り組んではどうか。
- ・下呂市内の中学生に向けて高校生が授業をするという機会を増やしてもらいたい。
- 意見 5・下呂市の小中学校のミッションとつながりがあり、小中高と連携していくことが大切ではないか。
- ・探究的な学習は中学校のほうがやっているかもしれない。小中学校では下呂学として、小学校では地域調べや地域行事の活動に参加し、中学校では地域貢献まで行っている。ボランティアも一人一回は行っている。ボランティアや探究活動も高校生でも違和感なくできているのではないかと。
 - ・先生の負担が懸念かもしれないが、小中学校では先生は手を出していない。地域にゆだねてもよいのではないかと。
 - ・スクールミッションをさらに宣伝する必要がある。そのために子供の活動をもっと見せてほしい。探究の授業で中学生に向けて発表会をする、部活も土日には中学生の練習に高校生も参加する。高校説明会も生徒が説明するなどの工夫をすることでスクールミッションを具現化することにつながるのではないかと。
- 意見 6・スクールミッションの具現化をどうしていくのか、地域はどう協力していけばよいのかを具体的に示してもらいたい。
- 意見 7・今日授業を見させてもらって、先生たちもわかりやすく授業してもらっているし、学ぶ環境も整っていると感じた。中学生が高校を見る機会もなく、高校生に関わる機会もない。大人からの話を聞いたところで子供は動かない。可能であれば、高校生と中学生でいろいろな関わりをもってもらえば、下呂市から入学したいという生徒が増えるのではないかと。
- 意見 8・地域とともにということが看護教育でも重要となっている。地域柄なのか地域も協力的で、令和4年度から実習先も倍ぐらいに増やすごく協力してもらえたように、協力を求めれば、多くが気持ちよく協力してもらえらると思う。
- ・下呂市唯一の看護教育の専門学校であり、ガイダンスなどには参加しているが、生徒の進路選択や体験学習などで協力できれば非常にありがたい。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営計画について理解が得られた。また、地域の学校として信頼されるための方策や、魅力ある学校づくりの第一歩として地域との関わりを深くし、校種を超えた子供たちの関わりの中で魅力を伝えていくことを提案され、意見を具現化し実践していきたい。